

令和2年度事業報告
(自 令和2年4月1日 ~ 至 令和3年3月31日)

公益財団法人岡田茂吉美術文化財団

I. 美術館運営事業

1. 展覧会の開催

新型コロナウイルス感染症流行拡大に伴い、地元自治体より休業要請を受けた事により、臨時休館を実施、計画当初は 300 日程度の開館を予定していたMOA美術館を 270 日、箱根美術館を年間 266 日、それぞれ開館運営し、尾形光琳筆国宝「紅白梅図屏風」をはじめ、所蔵する日本及び東洋の美術品を中心に特別展、企画展、平常展を開催した。

(臨時休館期間)

MOA美術館 令和2年4月10日～5月20日

箱根美術館 令和2年4月4日・5日および令和2年4月10日～5月31日

(1) MOA美術館 (総入館者数 157,968名)

① 歌川広重 東海道五十三次

令和2年3月20日(金)～4月8日(水)(期間入館者数 7,754名)

出陳件数 78件

街道風景や旅人の様子を細かく描写するとともに、四季の変化や晴、雨、雪、霧、風などの気象の変化、時刻の変化等を巧みに画面に取り入れ、臨場感をもって深い旅情を表した「東海道五十三次」全55枚を展観した。

② 没後70年 吉田博木版画展 自然への憧憬

令和2年5月22日(金)～7月6日(月)(期間入館者数 8,799名)

出陳件数 75件

明治から昭和にかけて西洋画壇を牽引した吉田博の没後70年を記念し、「日本アルプス十二題」や「瀬戸内海集」、3度の欧米外遊による写生をもとに制作した海外の風景など木版画の数々を展示した。

③ 井上涼展 炎のアツアツびじゅチュ館

令和2年7月10日(金)～9月27日(日)(期間入館者数 47,786名)

出陳件数 27件

炎によって作りあげられるアートをテーマに人間国宝の鈴木藏先生や十四代今泉今右衛門先生の指導のもと、井上涼さんが制作した茶碗や皿などを紹介。その他、「ツボのツボマッサージ師」をはじめとする楽曲を紹介した。

④ 北斎 富嶽三十六景

令和2年10月1日（木）～11月10日（火）（期間入館者数 28,051名）

出陳件数 66件

富士信仰の盛行を背景に、天保2年(1831)頃より西村永寿堂から刊行された北斎の「富嶽三十六景」は様々な場所から望む富士を、人々の暮らしとともに描写している。本展では所蔵の「富嶽三十六景」全46図を展示した。

⑤ 琳派の美 花鳥風月

令和2年11月13日（金）～12月13日（日）（期間入館者数 22,665名）

出陳件数 42件

本阿弥光悦書・俵屋宗達絵の「鹿下絵新古今集和歌巻断簡」、尾形光琳の「秋好中宮図」、尾形乾山による重要文化財「色絵十二ヶ月歌絵皿」など、四季折々の風物をモチーフにした琳派の優品を展示した。

⑥ 所蔵 浮世絵展 江戸の華

令和2年12月19日（土）～令和3年1月19日（火）（期間入館者数 13,236名）

出陳件数 47件

勝川春章の代表作である2件の重要文化財を中心に、江戸時代、庶民の関心事を主題として発展した浮世絵の中から菱川師宣、喜多川歌麿など個性豊かな浮世絵師たちによって描かれた肉筆美人画や版画の優品を選びすぐって展示した。

⑦ 名品展 国宝「紅白梅図屏風」

令和3年1月22日（金）～3月9日（火）（期間入館者数 19,560名）

出陳件数 59件

国宝「紅白梅図屏風」を中心に、コレクションの各ジャンルを代表する名品を精選し展観した。

⑧ 伝説の絵師 岩佐又兵衛三大絵巻—山中・浄瑠璃・堀江—挙公開

令和3年3月12日（金）～4月20日（火）（期間入館者数 25,717名）

出陳件数 8件

豊頬長頤の人物表現や和漢が混合した独特の画風で一世を風靡した岩佐又兵衛の古浄瑠璃絵巻群を代表する重文「山中常盤物語絵巻」、重文「浄瑠璃物語絵巻」、ならびに「堀江物語絵巻」の三絵巻を一堂に展観した。

⑨ 特集陳列 人間国宝奥山峰石の仕事 一代一職

令和2年1月24日（金）～4月8日（水）

出陳件数 8件

⑩ 特集陳列 人間国宝 前田昭博 白瓷展

令和3年1月22日（金）～3月9日（火）

出陳件数 8件

(2) 箱根美術館（総入館者数 58,300名）

① 常設展示

a) 令和2年4月1日（水）～令和3年3月31日（水）

重要文化財1件を含む縄文から江戸時代に至る日本古陶磁を中心とした常設展示を開催した。

b) 別館

令和2年4月1日（水）～令和3年3月31日（水）

創立者岡田茂吉の生涯と事蹟を、自筆書及びパネル等により紹介した。

② 小企画展

a) 令和2年4月1日（水）～令和3年3月31日（水）

展示室1にて「色絵陶磁器」展の開催

b) 令和2年4月1日（水）～令和2年12月9日（水）

展示室2にて「朝鮮陶磁」展の開催

c) 令和2年12月10日（月）～令和3年3月31日（水）

展示室2にて「人間国宝」展の開催

2. 調査研究

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）

以下の研究課題の2年目は、コロナ禍により、予定していた東南アジア地域の作品調査は延期を余儀なくされた。この間、文献調査による研究活動を継続し、国内で刊行された当該地域の漆芸に関する文献を調査集積し、現行の研究状況を改めて確認した。

研究課題名：環南シナ海・インド洋海域が育む近世螺鈿の諸相と貝文化圏の構想
—シェルロード

研究代表者：内田篤呉

3. 賛助会員（友の会）の募集

会員数 7,946 名

4. その他

(1) 季刊誌の発行

財団活動を広く知らせるための「美の友」誌を、4月・7月・10月・1月の4回発行し、MOA美術館来館者と友の会会員に配布した。

(2) 美術品や美術品画像データ等の貸出と意匠の許諾など

美術品の貸出しを、別紙資料1の通り行った。

II. 表彰・コンクール事業

1. MOA美術館児童作品展 2020 特別企画展

新型コロナウイルス感染拡大の影響より、本年度の児童作品展は来年に延期し、今年度は感染対策を講じつつMOA美術館に直接応募するあり方の作品展「MOA美術館児童作品展 2020 特別企画展」を実施した。

- (1) 対象 : 小学1年生～6年生
- (2) 受付期間 : 2020年9月20日～10月30日
- (3) 部門 : 「絵画の部」「書写の部」
- (4) 審査 : 12月1日、2日
- (5) 参加国 : 海外7か国
(アメリカ、メキシコ、ブラジル、アルゼンチン、チリ、タイ、スペイン)

(6) 応募数

書写 : 7,872点 絵画 : 11,310点 合計 : 19,182点

(7) 審査員

書写の部

- ・豊口 和士 文部科学省教科調査官・文教大学教授
- ・長野 秀章 東京学芸大学名誉教授
- ・加藤 泰弘 東京学芸大学教授

絵画の部

- ・小林 恭代 文部科学省教科調査官
- ・岡田 京子 東京家政大学教授
- ・村上 尚徳 環太平洋大学副学長
- ・遠藤 友麗 元聖徳大学生涯学習課講師・MOA美術館児童作品展シニアアドバイザー

(順不同・敬称略)

(8) 賞

絵画の部

MOA美術館特別奨励賞	7点
審査員特別賞	7点
国際交流賞	7点
金賞	7点
銀賞	27点

銅賞	45点
入選	100点
書写の部	
MOA美術館特別奨励賞	6点
審査員特別賞	6点
金賞	6点
銀賞	34点
銅賞	48点
入選	100点

2. 芸術選奨

(1) 賞の交付

- ① 東日本伝統工芸展 MOA美術館賞
- ② 日本伝統工芸展 奨励賞
- ③ 日本伝統漆芸展 MOA美術館賞

Ⅲ. 体験活動等の事業

1. 日本文化の体験

茶の庭や茶室、茶道具等に触れて抹茶を喫する茶の湯を通して、日本文化を体験する事業を、美術館開館日に、MOA美術館の茶室一白庵及び箱根美術館の茶室真和亭において行った。

(1) 体験プログラム（お茶、お花など）

① 旅行社とタイアップした茶室見学・体験

日経カルチャー、クラブツーリズム等をはじめとする各旅行社とタイアップし、MOA美術館の光琳屋敷や茶室一白庵のガイドツアーを実施し、日本の伝統的な建築・庭園空間を五感でお客様に味わっていただく取り組みを行った。なお、このガイドツアーの内容は、近隣観光施設の従業員研修や東海地区の教育者・美術愛好者グループの研修にも活用され、その受け入れを行った。

② 光琳乾山忌茶会

令和2年6月2日・6月3日に京都で開催予定していた光琳乾山忌茶会は、新型コロナウイルス感染症流行のため中止した。

(2) 能楽教室 体験・講座と能楽鑑賞

能楽器体験、能楽講座と能・狂言の鑑賞を行った。

期 日：令和2年8月18日

講 座：シテ方喜多流 大島輝久

演目解説：能「鶺鴒」講師：シテ方喜多流 佐藤陽
狂言「梟山伏」講師：狂言方和泉流 高野和憲
鑑賞：喜多流「鶺鴒」金子敬一郎
和泉流「梟山伏」野村太一郎
参加者数：能楽器体験 57 名、講座と鑑賞 88 名

IV. 主催公演・講座・セミナー事業

1. 主催公演

伝統文化等の普及と芸術鑑賞会を通じた情操教育として、能楽堂における定期演能会やコンサート等の公演を行った。

(1) 熱海座公演

① 「演能会」

期日：令和2年11月29日（日）（入場者数 388 名）

能「絃上」宝生流 辰巳満次郎 他

狂言「棒縛」和泉流 野村万蔵 他

② 井上涼 びじゅチューン！ライブ in 真夏の能楽堂（入場者数 391 名）

期日：令和2年8月22日（土）

会場：MOA美術館・能楽堂

③ 「第九コンサート 2020」

期日：令和2年12月31日（木）

参加者数 825 名（第1回公演 437 名、第2回公演 388 名）

演奏 オーケストラ／シンフォニエッタ静岡 指揮 中原 朋哉

ソプラノ／盛田麻央、メゾ・ソプラノ／鳥木弥生

テノール／高柳圭、バリトン／上江 隼人

合唱／アンサンブル・ヴォーカル L. v. 250

④ 「坂田明's COCODA ジャズコンサート」

期日：令和3年3月28日（日）（入場者数 457 名）

演奏：坂田明 (sax)、大森菜々(pf)、かわいしのぶ (ba)、坂田学 (dr)

⑤ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため以下の公演は延期、中止した。

令和2年3月29日「永遠のポップスコンサート」中止

令和2年5月15日～19日「熱海座 坂東玉三郎舞踊公演」11月に延期

令和2年5月30日「熱海座 観世清和演能会」中止

令和2年11月18日～22日「熱海座 坂東玉三郎舞踊公演」中止

令和3年1月1日「熱海芸妓置屋連合組合 初春の舞」中止

令和3年1月2日～3日「関古式囃子保存会による獅子舞と囃子演奏」中止

2. 主催講座

(1) 光輪花クラブ

創立者のいけばなとライフスタイルを学べる光輪花クラブとして、コース、カリキュラムを改定し、「美的生活コース」「芸術コースⅠ」に続き、令和2年7月より「芸術コースⅡ」を開始した。

(美的生活コース 3,645名 芸術コースⅠ 1,926名 芸術コースⅡ 280名
会員合計数 5,851名)

(2) 花サロン

生活の器を工夫していけばなの楽しみ方を提案する6回型の光輪花講習会を開催した。

(3) キッズ光輪花クラブの開設

光輪花クラブの子ども用のカリキュラム、制度、テキストを作成し、令和2年10月より、「キッズ光輪花クラブ」の先行実施を開始した。

V. 育成事業

1. スクールプログラム

版画「東海道五十三次」を活用した出張美育セミナーの実施

- ① 令和3年2月1日(月) 玉野市立山田中学校全校生徒68名を対象に実施した。
- ② 令和3年2月2日(火) 玉野市立東兎中学校全校生徒87名を対象に実施した。
- ③ 令和3年3月11日(木) 岩倉市立南部中学校2年生134名を対象に実施した。
- ④ 令和3年3月12日(金) 岩倉市立岩倉中学校全校生徒270名を対象に実施した。

2. 花による美育活動の推進—MOA美術文化インストラクターの育成と資格の付与

- (1) インストラクター数 4,575名
- (2) インストラクターの資質向上を図る研修会を、美術館及び各地区で開催した。
- (3) インストラクター更新研修を実施した。
- (4) 新規インストラクター審査を実施し、新たに60名に資格付与した。

- (5) 光輪花クラブ開講インストラクターへの経費補助を行った。
- (6) 青年インストラクターの発掘、育成を図るユース研修（2回、21名）を行った。
- (7) 光輪花クラブを中心とする美育推進会合を定期的に開催した。（年6回）

VI. 経営基盤の拡充

1. 経営改善

- (1) 顧客満足循環型経営への改善（職員の資質向上への取り組み等）
 - ① 新型コロナウイルス感染が拡大する状況下、デジタル化を強化し、財団としてのポテンシャルを更に発揮できる体制整備を目的に、10月21日付けで組織変更および人事異動を行った。
 - ② 展覧会等の企画充実、インバウンド対策、広報発信力強化等を目し、その方面の専門的な技能・知識を有する新規人材を、若手を中心に積極的に採用・育成した。
 - ③ キャッシュレス化への対応、インバウンド対策等のため、MOA美術館で昨年度導入したPayPayを箱根美術館に新たに導入すると共に、箱根美術館切符売り場をはじめ、光琳堂、真和亭へ電子マネー決済を導入した。
 - ④ インバウンド対策強化の一環として、職員対象の英会話研修を実施した。
- (2) コスト削減と増収に向けた経営改善計画案などの策定
「文化観光推進法に基づく拠点計画及び地域計画」に、地元静岡県・熱海市および関連企業・団体との協働によって申請、認可を受け、公的助成を受けながら地域の文化観光発展のための事業を実施した。全5年計画のうち、本年度は初年度に当たる。
（主な実施事業）
 - ① 文化資源の魅力増進
 - a) ラグジュアリーな富裕層に向けた早朝・夜間を活用したプログラムの実施
 - ・ 紅葉ライトアップ演出、花火イベント演出
 - b) 観光閑散期のおける一流伝統芸能家・音楽家の公演「熱海座」事業
 - ・ 年末 第九コンサート、3月春休みフロアーコンサート
 - ② 文化資源の理解促進
 - a) 美術品や諸施設のわかりやすい解説強化事業
 - ・ 日本庭園英語看板設置、無線LAN整備
 - b) 静岡県観光協会と連携した外国人向け日本文化体験プログラム実施者語学研修
 - ③ 来訪者の利便性向上
 - a) 文化拠点と市内観光資源との移動の利便推進事業
 - ・ 熱海梅園梅まつり、MOA美術館名品展期間中の熱海梅園～MOA美術館

のシャトルバス運行

④ 来訪者の対応の企画・計画

- a) 伝統工芸品の販売事業
- b) 無形文化遺産和食を中心とする体験プログラムの推進と食の充実
 - ・ 伝統工芸作家による懐石の器制作、店舗用オリジナル皿、カップ制作

(3) 寄付金制度（ファンドレイジング）の推進

- ① 税額控除対象法人の認定について、季刊誌、MOA美術館ホームページ等を中心に広報し、周知を図った。
- ② 美術品寄贈に伴う寄贈者非課税の適用を受けた、1件74点の寄贈を受け入れた。

(4) 海外広報用ビデオの制作

光輪花を広く海外に紹介する広報用ビデオを制作し、MOA美術館ホームページやYouTubeを通じて世界に発信した。

2. 入館者増加をめざした取り組み

(1) 展覧会やイベントに焦点をあてた広報・営業活動の推進

- ① ポスター掲示・チラシ配布
 - a) MOA美術館展覧会ポスターやチラシを熱海市内420か所及び全国312か所に掲出依頼した。
 - b) イベントチラシを作成し、熱海市内355か所に掲出依頼した。
 - c) 市内マンション61棟を訪問しチラシ配布掲出依頼した。
- ② マスコミへの情報提供
 - a) 展覧会、イベント等の情報を積極的に配信、取材の受入れを行った。

(2) 地元市民に開かれた美術館に向けての取り組み

(MOA美術館)

- ① 熱海市役所・熱海市観光団体（観光協会、ホテル旅館協同組合、商工会議所）との連携強化を図った。
- ② 紅葉ライトアップ（11月28日、29日、12月4、5、6日 合計990名参加）
4年目となる紅葉期のイベントとして、茶庭の110本余のモミジの昼間とともにライトアップをして夜も楽しんでいただき、日本一遅い紅葉の熱海で、紅葉狩りの新名所となるよう継続して開催した。最終日は熱海海上花火大会の鑑賞イベントも合わせて開催し5日間で990名余の方々が紅葉ライトアップを鑑賞した。

(3) 観光客の誘致・誘客の改善強化など

(MOA美術館)

- ① 熱海市内及び近郊施設への「前売り券」取り組みを行った。
- ② 熱海寮保養所協会との特別提携を行った。

③ 近郊の宿泊施設との入館及びイベント等のセットプラン造成に取り組んだ。

(箱根美術館)

箱根強羅公園、ポーラ美術館等、近隣施設との「共通割引チケット」相互販売に取り組んだ。

(両館共通)

G o t o キャンペーン、G o t o E a t キャンペーンの実施に取り組んだ。

(4) ホームページやSNS等による広報の充実

① ホームページの更新

a) ホームページの内容を逐次確認し、表現及び画像更新の迅速化に努めた。

② フェイスブック、ツイッター、インスタグラムなど SNS の充実

a) 展覧会の見どころ、イベント情報などの発信に努めた。

b) 「フォロワー」の獲得数をバロメーターに、内容充実に努めた。

3. 施設の貸与事業

能楽堂などを、伝統文化の普及をはじめ当財団の目的に沿った用途に使用する団体・個人への施設の貸出を積極的に行った。なお、計画していた茶室の貸し出しについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止された。

(1) 能楽堂の貸出

① 源氏物語文学セミナー（開催数 5 回 参加者総数 400 名）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言下等の期間中に計画された回は中止され、以下の開催日に、能楽堂および付帯設備の貸し出しを行った。

a) 開催日：

令和 2 年 9 月 15 日（火）、10 月 20 日（火）、11 月 17 日（火）、12 月 8 日（火）、
令和 3 年 1 月 19 日（火）

b) 講師： 羽深恵美

c) 開催場所： 能楽堂

② 熱海市 G O T O キャンペーン説明会

期日：令和 2 年 7 月 22 日（水） 参加者数 167 名

③ 熱海市交通安全管理者講習会

期日：令和 2 年 9 月 30 日（水） 受講者数 153 名

④ 熱海市 G O T O E A T キーポン説明会

期日：令和 2 年 10 月 2 日（金） 受講者数 186 名

⑤ 食中毒講習会

期日：令和 2 年 11 月 18 日（火） 受講者数 452 名

- ⑥ 朔州會
期日：令和3年3月15日（月） 使用者数7名
- ⑦ 熱海市民大学
期日：令和3年3月27日（土） 受講者数150名

(2) Kōgei Dining 熱海会場 日本博・文化庁

期日：令和2年12月4日（金）

- ・ トークイベント「工藝と食」（能楽堂） 参加者数400名

登壇者 室瀬和美 漆芸家・無形文化財「蒔絵」保持者（人間国宝）

鎧塚俊彦 Toshi Yoroizuka オーナーシェフ

ゲスト 中田 英寿氏 JAPAN CRAFT SAKE COMPANY 代表

- ・ 食事会（応接室） 参加者数40名

宮田亮平 文化庁長官が主催者として出席され、乾杯の挨拶をいただいた。鑑賞するだけでは知ることのできない工芸の持つ「用」の美しさを、食事会を通じて参加者自身で確認していただける貴重な機会となった。

4. 美術館設備・施設（庭園を含む）改善・改修

美術館の安全確保に向けた対策

- ① 施設・設備の安全対策、サービス向上に向けての更なる改善・改修
（箱根美術館）

切符売場空調機更新工事を行った。

- ② 美術館の防災、防犯の設備強化
（MOA美術館）

a) 令和2年10月22日（木）に地域の総合防災訓練が実施されたが、新型コロナウイルス感染症対策により規模が縮小され、当館職員の多くが参加困難となったため、当館独自の防災訓練に振り替え実施し、正規職員および不正規職員の大半が参加した。

また、大規模災害により来館者が美術館内で足止めをされた場合を想定した毛布・簡易トイレ・保存食料・飲料水の備蓄を追加した。

b) 休館日の防犯体制強化の為、昨年度に引き続き休館日における入館受付・警備を警備会社に依頼・実施した。

（箱根美術館）

a) 防災備品の確認や防災マニュアルの見直しを行った。

- ③ 危機管理体制の整備・強化
（MOA美術館）

- a) 館内等での不測の事故に備えた賠償責任保険その他の保険加入を本年度の来客数規模に合わせて見直し、更新・継続した。
- b) 新型コロナウイルス感染症流行に伴う対策として、冒頭でも記した通り臨時休館を実施した他、開館時においては全職員がマスクを着用、設備的には入口や館施設の要所要所への消毒液設置、受付や飲食店舗客席への透明アクリル板の設置、手摺や手洗等の清掃・消毒を徹底するなど、令和2年度文化芸術振興費補助金（文化施設の感染症防止対策事業）を活用し、体制を整えて、来館者の受け入れを行った。
- c) 労働基準監督署の指導に基づき、安全衛生管理体制の再構築を行った。

5. 飲食及び物品販売

(1) MOA美術館飲食コーナーの運営

観覧者に美術鑑賞をゆったりと楽しんでいただくための周辺環境の整備として、以下、直営3店舗の運営を行った。

① 和食 花の茶屋

地産地消とオーガニック・自然農法素材による日本料理を提供した。

② the café

サンドウィッチ、菓子パン、シフォンケーキ、ソフトクリーム等の軽食およびコーヒー等ドリンク類を提供した。

③ ラ・パティスリー・デュ・ミュゼー・パール・トシ・ヨロイツカ

令和2年5月23日、パティシエ鎧塚俊彦プロデュースのスイーツ店を新規オープン。人間国宝室瀬和美デザインによるカップ&プレートで、ケーキ、軽食、ドリンク類を提供した。

(2) ミュージアムショップの運営

箱根美術館売店

箱根美術館の開館日に営業を行った。

以上

□ 処務報告事項

1. 理事会並びに評議員会開催の件

- 理事会を令和2年4月1日より令和3年3月31日迄に2回開催した。
- 評議員会を令和2年4月1日より令和3年3月31日迄に1回開催した。

(1) 理事会に関する事

開催年月日		会議事項	
R. 2. 6. 10	議案	平成31年度 事業報告及び計算書類承認の件	可決
R. 2. 6. 10	議案	定時評議員会開催の件	可決
R. 2. 6. 10	議案	就業規則変更の件	可決
R. 2. 6. 10	議案	美術品寄贈受入れの件	可決
R. 3. 3. 26	議案	令和3年度事業計画書及び収支予算書承認の件	可決
R. 3. 3. 26	議案	理事会、評議員会の日程の件	可決

(2) 評議員会に関する事

開催年月日		会議事項	
R. 2. 6. 26	議案	平成31年度事業報告の件	可決
R. 2. 6. 26	議案	平成31年度 計算書類承認の件	可決

2. 職員の状況の件

	職員	㊦・常勤	㊦・非常勤
計	100名	44名	56名

3. 特記事項

箱根美術館本館、及び別館の建つ「神仙郷」が、文化審議会より国指定の「名勝」として答申され、令和3年3月26日付の政府機関紙「官報」に文部科学省告示として掲載され、正式に「名勝」に指定された。

以上